

新県立博物館の活動と運営 Vol.3

～ともに考え、活動し、成長する博物館に向けて～

中間報告

平成23年12月

三重県生活・文化部

新博物館整備推進室

県では、昭和28年に開館し、長く三重の自然と歴史・文化の資産の保全、継承、人材育成など地域の拠点として活動してきた現三重県立博物館の老朽化に伴い、これに替わる新たな「文化と知的探求の拠点」として新しい県立博物館の整備について検討を行ってきました。

新県立博物館は、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。博物館の主役は、県民・利用者の皆さんです。この考え方を、博物館をつくる段階から実践していくため、現三重県立博物館で取り組んできた活動を発展的に新県立博物館に向けた活動に集約しつつ、新たな検討や試行を加えて、県民・利用者の皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、平成21年度から開館までの約5年間に、新県立博物館の開館に向けたさまざまな検討や取組を県民・利用者の皆さんに報告し、一緒に考えていただくための資料として活用するために、毎年「新県立博物館の活動と運営」をまとめていくこととしました。平成21年度のVol.1（第1巻）から平成25年度のVol.5（第5巻）まで、記録として共有できるようにまとめていきたいと考えています。また、「新県立博物館の活動と運営」を開館後のみんなでつくる博物館の基本的なしくみとして発展させるための検討も進めます。

本年度Vol.3を作成するにあたり、第1章の各取組の整理の仕方や第2章で扱う内容、第3章の構成など、よりわかりやすく博物館づくりの進捗内容について伝え、議論につなげていくにはどうすればよいか、検討しましたが、まだ多くの課題が残っていると感じています。

ぜひ、一人でも多くの方がご覧になり、内容についてご意見・ご感想をお寄せいただくとともに、新県立博物館をつくっていく過程に参加・参画していただくことにつながれば幸いです。

平成23年12月

三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

目 次

	ページ
序章 新県立博物館の理念と使命	4
第1章 事業実施方針の基本的な考え方	5
1 事業の目標	
2 取組方針	
3 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組 ～4つの重点的取組テーマ～	
4 事業実施方針と新たに加わった「3方向」と「7項目」	
第2章 2011(平成23)年度の取組概要	7
1 4つの重点的取組テーマと事業との関わり	
1) 参画のしくみづくり	
2) 連携と協創が進む環境づくり	
3) 評価と改善のしくみづくり	
4) 魅力的で使いやすい博物館づくり	
2 施設整備の進捗	
1) 建築工事	
2) 展示工事	
3) 情報システムの構築準備	
3 広聴広報	
4 開館に向けた事業の実施状況	
1) 開館に向けた調査研究活動	
①地学分野	
②自然分野	
③人文分野	
④総合分野	
⑤総合分野(博物館学)	
2) 開館に向けた収集保存活動	
①自然・人文資料の収集	
②三重のくらしの写真収集プロジェクト	
③資料の保存・管理	
3) 開館に向けた諸活動	
①移動展示	

- ②博物館教室・フィールドワーク等
- ③三重県立博物館サポートスタッフ活動
- ④シンクタンク活動
- ⑤新聞情報誌への連載
- ⑥博物館資料の活用
- ⑦博物館での実地研修
- 4) 評価と改善のしくみづくり
 - ①みんなでつくる博物館会議
 - ②経営向上懇話会
 - ③「新県立博物館の活動と運営」のとりまとめ
- 5) 公文書館機能の整備
- 6) 資料レスキュー活動

第3章 2012（平成24）年度に向けて……………52

- 1 2012（平成24）年度の位置づけ
- 2 2012（平成24）年度の取組のポイント

巻末資料 2011（平成23）年度の検討内容から

■ 「新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）」の検討

…巻資①-1～20

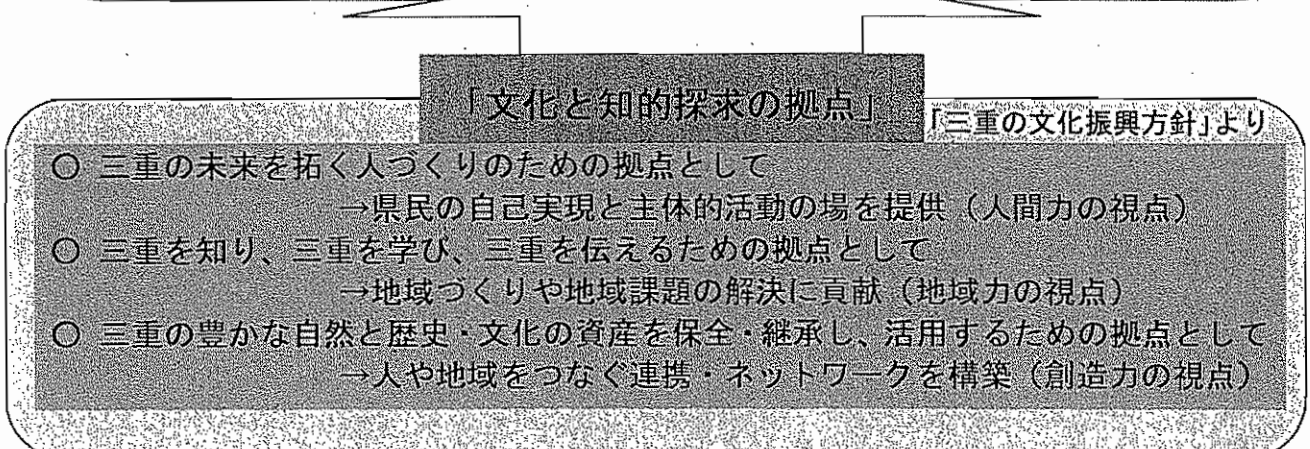
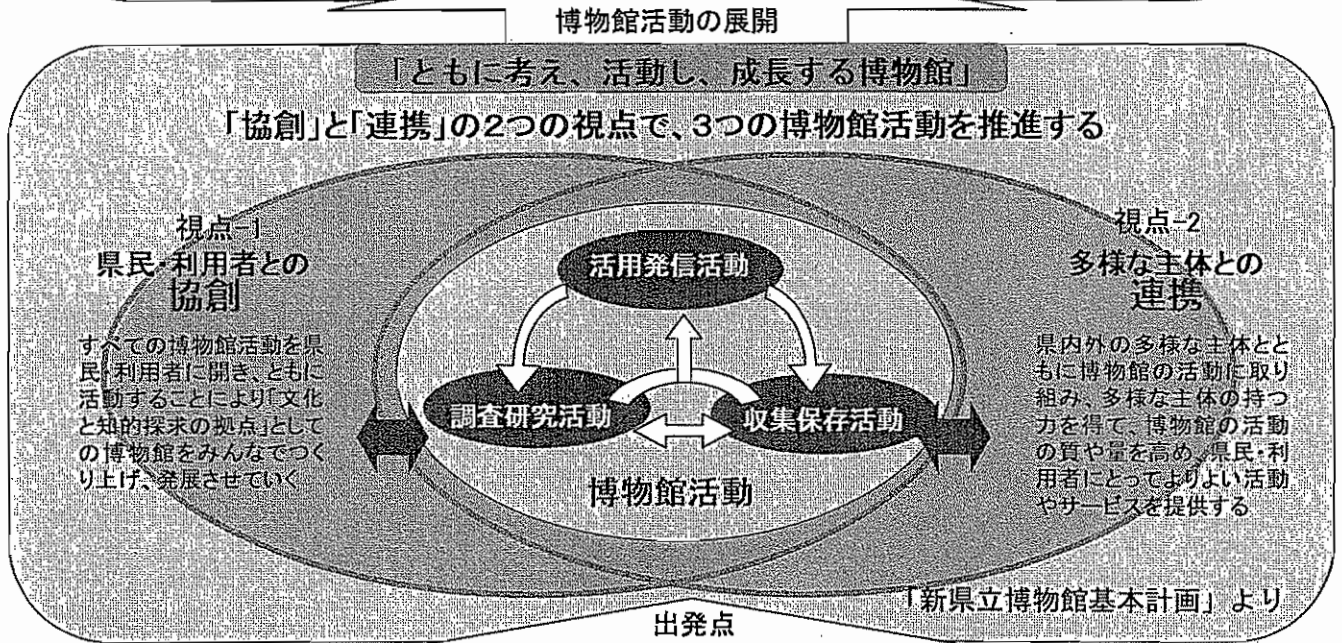
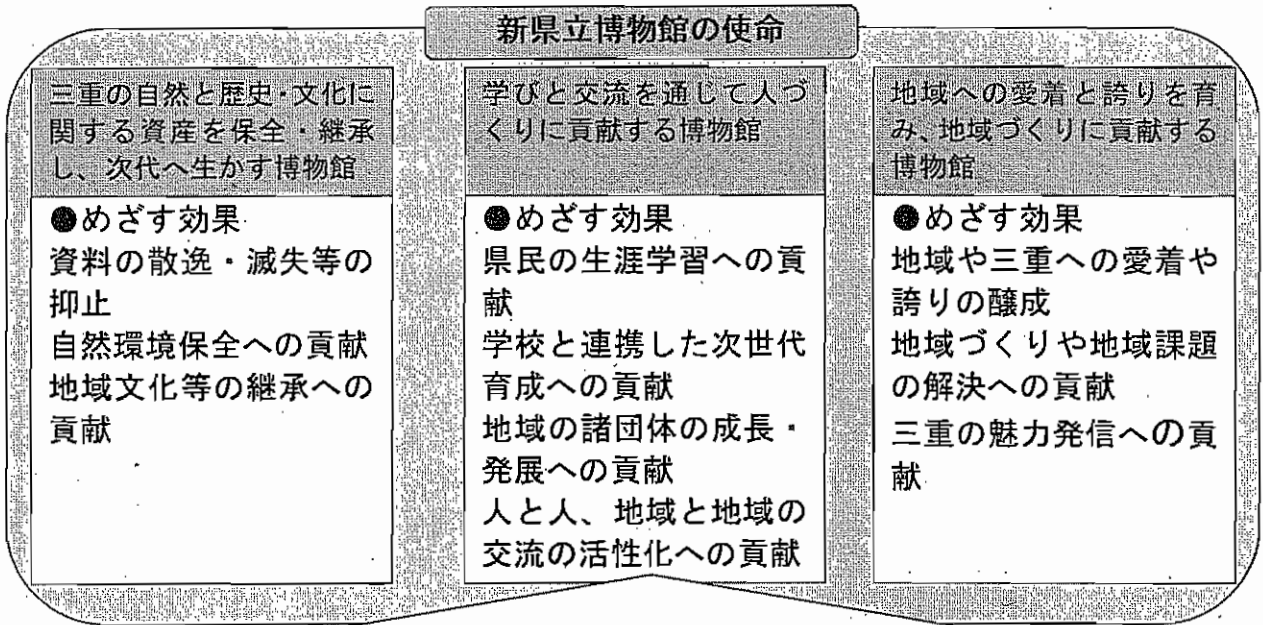
- 1 新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）のとりまとめの考え方
- 2 平成24年度検討案

■ 新県立博物館整備にかかる「3方向」「7項目」について

…巻資②-1～25

- 1 新県立博物館整備にかかる「3方向」「7項目」の位置づけについて
- 2 「7項目」の進捗状況について
 - ①県費負担の削減
 - ②広報体制強化
 - ③外部有識者による委員会
 - ④民間の参画による経営基盤確立（②とあわせて記載）
 - ⑤現三重県立博物館の解決策
 - ⑥自然エネルギーの活用拡大
 - ⑦金銭価値で示せない影響・効果

序章 新県立博物館の理念と使命



第1章 事業実施方針の基本的な考え方

- 1 事業の目標 「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくり
- 2 取組方針
 - (1)開館前から協創・連携による活動を展開する
開館前から、県民・利用者との「協創」の視点と多様な主体との「連携」の視点に基づく活動を展開します。
 - (2)既存の活動を拡充・発展させる方向で展開する
現三重県立博物館が既に実施している活動を拡充・発展させ、新県立博物館の活動につなげます。
 - (3)重点的取組テーマを設定して活動を展開する
「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくりのために、重点的取組テーマとして下記の4項目を設定し、開館に向けた活動の中で積極的に展開します。
 - (4)ソフトの成果を施設づくりに生かす
事業実施方針に基づく検討・取組を施設づくり（設計・施工）に生かします。
- 3 県民・利用者の皆さんとともに進める協創による取組
～4つの重点的取組テーマ～
 - (1)取組テーマ1 参画のしくみづくり
県民・利用者の皆さんが、一人ひとりの状況に応じて博物館の活動や運営に関わることができるよう、多様な参画の機会を設けます。
 - (2)取組テーマ2 連携が進む環境づくり
県内外の博物館、大学等高等教育機関、学校など多様な主体との連携が進むために必要なしくみの整備を進めます。
 - (3)取組テーマ3 評価と改善のしくみづくり
博物館の活動や運営の成果を県民・利用者をはじめ、博物館に関わる人がみんなで振り返り、確認することにより、次に生かし、活動や運営をより充実したものに高めていけるようなしくみを検討し、設けます。
 - (4)取組テーマ4 魅力的で使いやすい博物館づくり
より多くの人に興味を持って、来館し、リピーターとなるような魅力的な博物館とするための取組を進めます。

4 事業実施方針と新たに加わった「3方向」と「7項目」

(1) 「3方向」と「7項目」とは

平成23年4月に就任した鈴木知事は、新県立博物館整備計画について政策面や財政面などの観点から検証を行い、「整備を進める」と判断しました。この決定に際して、知事は、より魅力的で、県民に親しまれる博物館づくりのために必要な「3方向」と、県民への説明責任を果たす上で取組や解決が必要と考える「7項目」をあげ、今後の取組に反映させていくこととしました。

(2) 事業実施方針への取組との関係

「3方向」は、事業実施方針に基づく4つの重点的取組に反映させて一体的に博物館づくりを進めていきます。また、「7項目」は、県財政への負担の軽減、継続的な博物館運営のための基盤整備など個々の課題に対応するものであり、他の関係する取組と連携をとりつつ、項目ごとに進捗を管理します。

参考

(3方向)

- ① 三重のアイデンティティをわかりやすく発信する博物館づくり
 - ・子どもや素人にも、誰にでもわかる博物館
 - ・専門性と技術のクオリティの裏付けがある博物館
 - ・館のホスピタリティまで、ストーリー性をもつ博物館
- ② “わたしの博物館”づくり
 - ・県民みんなが博物館づくりに参加する博物館
 - ・みんなで支えていく文化が育つ博物館～積極的に民間からの支援を受けながら、ともに活動する博物館～
- ③ 市町や民間の博物館等を支え、協力・連携して三重を発信する博物館づくり
 - ・資料の保存環境等の技術支援や共同で調査研究や展示などを企画・実施する博物館
 - ・自然分野など、市町や地域で対応できない分野について協力・支援する博物館

(7項目)

- ① 総事業費を含めた支出の節減努力を不断に行う。段階的な増収も盛り込んだ収入計画を立案し、年間の運営費4億5千万円に対する県費負担について、2割程度削減すること
- ② 入館者増、企業からの寄付などの収入増を実現するため、広報体制を強化すること
- ③ 外部有識者による委員会を立ち上げ、第三者の視点から博物館事業の経営面などについて評価し、改善していくための仕組みを早期に導入すること
- ④ 多様なアイデアをもとに民間の参画による経営基盤の確立をはかること
- ⑤ 現三重県立博物館について県費負担をかけないような解決策を示すこと
- ⑥ 自然エネルギーの活用について、当初計画よりも一層拡大すること
- ⑦ 金銭価値では示せない社会への影響・効果を明示し、それらへの取組状況を確認するための評価と改善のしくみをつくること

第2章 2011（平成23）年度の取組概要

2011（平成23）年度の取組については、「新県立博物館基本計画（平成20年12月）（以下「基本計画」という。）に基づき作成した「新県立博物館事業実施方針」（平成21年3月）（以下「事業実施方針」という。）をもとに、展開してきました。

1 4つの重点的取組テーマと事業との関わり

4つの重点的取組テーマのためにどのような事業を実施してきており、平成23年度にどのような事業を行っているのかについては、次のとおりです。また、それぞれの事業の具体的内容については、「4 開館に向けた事業の実施状況」に記載しています。

1) 取組テーマ1 参画のしくみづくり

開館に向けて、より多くの県民・利用者の皆さんが、一人ひとりの状況に応じて、博物館の活動や運営に参加・参画できるよう、試行的取組やその成果を活かしたしくみづくりを行ってきました。

例えば、現三重県立博物館が行ってきた博物館教室などの事業をはじめ、小中学生を対象としたティーンズプロジェクトや博物館きわめるプロジェクト、県内外の研究者だけでなく学校や県民・利用者の皆さんの参加を得て行う調査事業などを進めてきました。とりわけ、現三重県立博物館で平成18年から募集・運営しているサポートスタッフの皆さんは、自ら主体的に博物館活動に参加し、新県立博物館に向けた意見なども積極的に出していただいております。サポートスタッフ制度は、開館後の県民・利用者による参画組織を考える上で、重要な役割を果たしています。

平成23年度においては、これまでの事業内容を精査した上で、引き続き取り組んでいます。参画のしくみづくりの特徴として、すべての事業を参加・参画の視点で進めていることが挙げられますが、特に次の事業は、関わりが強いものです。

（平成23年度の関連事業）

- ・ みんなでつくる博物館会議
- ・ こども会議
- ・ ティーンズプロジェクト
- ・ 三重のくらしの写真収集プロジェクト
- ・ 移動展示
- ・ 調査研究事業（博物館建設地地層・化石調査、御師屋敷の復元、器物調査、平野のくらしと自然の調査、磯のくらしと自然の調査など）

2) 取組テーマ2 連携が進む環境づくり

新県立博物館では、まちかど博物館、地域の団体、三重大学、学校、県内博物館、企業など多様な主体の参加・参画を得て、より充実した博物館活動や運営を実現していけるよう連携事業を進めてきました。これまで、それぞれ可能なことから取組を進め、連携の経験を積み重ねています。

今後は、試行的な取組を引き続き進めながら、連携の経験をもとに、互いにもてる力を出し合い連携して何ができるのか、必要なしくみなどについて具体的に構築していくこととしています。

【まちかど博物館との連携】

県内に500館あまりある「まちかど博物館」とは、これまで、まちかど博物館長交流会に参加し、新県立博物館に関する意見交換を行ったり、移動展示に参画いただくなどの取組を行ってきました。

平成23年度においては、引き続きこれらの取組を行うとともに、三重のくらしの写真収集プロジェクトを連携して取り組んでいます。

【地域の団体との連携】

調査研究や資料の収集保存、活用発信などの諸活動の基本となる博物館活動を連携して実施し、人的なネットワークづくりを行ってきました。

これまで、県内の自然とその保全活動を紹介する「しぜん文化祭」を毎年3月頃開催するにあたり、自然系団体で構成する実行委員会に新県立博物館も参画してきました。さらに、しぜん文化祭のなかで、新県立博物館が主催する「新県立博物館と自然に関するシンポジウム」を同時開催してきました。

平成23年度においても「しぜん文化祭」に参画するとともに、新県立博物館の基本展示に関わる調査研究や資料の収集について、各地の自治会、旧御師・丸岡宗大夫邸保存再生会議、皇學館大学、紀和町丸山千枚田保存会、海女研究会、NPO法人三重県環境保全研究センターなどと連携しながら実施しています。

【三重大学との連携】

同大学とは、三重県の文化振興と文化力の向上に寄与することを目的に、新県立博物館にかかる連携に関する協定を平成21年3月に締結し、相互に協力していくこととしました。

平成21年度から連携のあり方などについて定期的に連携協議を行っており、その一環として、基本展示室の展示設計と製作に関して意見交換

や3つの共同研究を実施し、また、互いの連携や博物館について考えるシンポジウムを平成21・22年度で計4回共同開催しました。また、大学が、中心となり開催してきた「青少年のための科学の祭典」に「昆虫切り紙体験」を出展し、次世代育成のために取り組むとともに、博物館実習やインターンシップの学生の受け入れを行ってきました。

平成23年度においては、これまでの取組を引き続き進めるとともに、今年度から、教育学部の教員と連携して、博物館を活用した小学生の学習教材の開発についても、意見交換をはじめました。

【学校との連携】

依頼に応じて、水生生物調査や昆虫切り紙体験と昆虫観察、化石レプリカづくり、昔の道具体験などの出前授業を行ってきました。

平成23年度においても、引き続き学校からの相談を受けたり、出前授業に出かけたりすることにより、博物館への理解を広げるとともに、学校や児童生徒の状況を把握し、今後の取組に活かしていくこととしています。

【県内博物館との連携】

県内博物館51機関61館が参加する「三重県博物館協会」に、今後の連携に向けた検討のためのワーキンググループを設けています。平成22年度には、研究フォーラム「子どもが主役となる博物館づくりを考える」を開催しました。今後、これまで三重県博物館協会で行ってきたことや、平成20年度に実施したアンケート調査を参考にしながら、行事や展示などの共同開催、合同広報活動、資料情報などの共有化、合同研修会など、可能なものから具体的に検討を進めていくこととしています。最終的に、連携が利用者にとってメリットになり、県内博物館にとっても基盤強化につながるよう、持続的に、県内博物館とともに取組を進めていくことをめざしています。

平成23年度は、東日本大震災の発生を受け災害に関する研修会を行っています。新県立博物館はこの研修会に講師を派遣するとともに運営に積極的に関わり、さらに具体的なネットワーク構築へと進んでいきたいと考えています。

【企業等との連携】

新県立博物館の活動や運営への参画のあり方を検討するにあたって、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている県内企業や団体、NPOといった民間部門は、欠かせないパートナーであると考

えています。今年度「7項目」が新たに知事により示されたことや、これまで企業等との連携に十分取り組めていなかったことから、今後は、試行的なものから取組を進めていくこととしています。

平成23年度においては、企業が多く集まる展示会やセミナーに参加したり、企業を個別に訪問してヒアリングを実施し、参画への働きかけと参画形態の掘り起こしを行っています。また、ユニバーサルデザインに関する団体と連携して、魅力的で使いやすい博物館づくりのため意見交換を定期的に行っています。

【文化と知的探求の拠点との連携】

「三重の文化振興方針（平成20年3月）」では、県内の「文化と知的探求の拠点」（県立・市町立・私立の文化施設）、と「身近な拠点」（市町の公民館、児童館等の施設など）が、それぞれの特徴を生かし、役割を果たしながら連携して、三重県全体として文化振興を図っていくことを重点方針としています。

現三重県立博物館においても、多様な機能をもった生涯学習センターや文化会館、図書館、他の博物館、公民館などと連携することで、より充実した博物館活動の展開と新県立博物館への期待感の醸成につなげてきました。

なお、三重県総合文化センター周辺の各施設とともに、新県立博物館整備をきっかけとした「みえの文化交流ゾーン」形成のための取組について検討を行っています。

（県総合文化センターとの連携）

平成23年度は、三重県総合文化センターが子どもたちを対象に毎年実施している「M祭」が、本年度も7月31日に開催され、現三重県立博物館もブースを出展し、三重県立博物館サポートスタッフと博物館実習生と協働で子ども向けの体験事業として「化石のレプリカをつくろう」を実施し、638人の参加がありました。また、新県立博物館の紹介コーナーを設置して広報を行いました。

（公民館や地域団体などとの連携）

平成23年度は、引き続き、みえこどもの城、公民館や地域団体などと連携して、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象とする生涯学習機関に対して、昆虫講座・観察会や昆虫切り紙教室や化石レプリカづくりなどの協力を行っています。

（次世代の文化体験活動推進事業）

平成23年度も引き続き、県生涯学習センターが窓口となり、県の「文

化と知的探求の拠点」が連携して、未来の文化を担う子どもたちに、ホンモノの文化・芸術と「出会う」機会を提供する事業で、現三重県立博物館所蔵の資料やノウハウなどを活用して学校での授業や観察会などを行うため、職員を派遣しました。

3) 取組テーマ3 評価と改善のしくみづくり

事業実施方針の段階では、評価と改善のしくみが重要であり、その構築を特に取組テーマとして重点的に行うこととしていました。しかし、これまでの運営方針の検討のなかで、活動方針や評価と改善のしくみを含めた新県立博物館の基盤となる「博物館マネジメント」のしくみとして整備することが必要で、その重要な一部を担うのが「評価と改善のしくみ」であることが明確になりました。また、博物館の評価には、運営全体の評価と、調査研究や展示など個別評価とがあることも整理し、今後は、先進事例などを参考に、試行も取り入れつつ、県民・利用者の皆さんと具体的な構築に向けた取組を進めることとしています。

これまで「みんなで作る博物館会議」、「こども会議」、「ユニバーサルデザイン分科会」、「県立博物館の利用者団体の分科会」を開館後における評価体制の確立に向けて試行的に実施してきました。これらのなかには、テーマや対象を明確にして分科会として取り組んでいるものもあります。さらに、展示等の事業評価の取組としても位置づけている「展示検討や調査研究ワークショップ」なども試行的に実施しています。これらの取組は、微修正しながら平成21年度から毎年実施しており、その成果と課題を明確にしながら、開館後の評価と改善のしくみをつくりつつあります。

また、新県立博物館に向けた検討や取組の進捗状況について「新県立博物館の活動と運営」(本冊子)としてとりまとめ、意見交換などに活用しています。

平成23年度は、これまでの取組について内容を精査して引き続き行うとともに、先進事例調査として、兵庫県立人と自然の博物館と東京都写真美術館、及び千葉県立中央博物館において、評価制度について聴き取り調査を行いました。

なお、今年度設置した「経営向上懇話会」においても、評価と改善のしくみについて意見をいただいています。

4) 取組テーマ4 魅力的で使いやすい博物館づくり

ソフト・ハードの両面で魅力的で使いやすい施設づくりと運営を進め、新県立博物館の魅力を効果的に県民・利用者の皆さんに広報・発信するしくみづくりを進めてきました。

例えば、設計段階から県民・利用者の皆さん、障がい者団体やユニバーサルデザイン団体などと意見交換を定期的に行い、施設面での反映に取り組んでいます。現在は、さらに、サービスや運営などソフト面、人的な側面から誰にでも快適な博物館づくりについても意見を伺っています。

このテーマの取組は、博物館づくりに関する情報を積極的に提供するとともに、県民・利用者の皆さんの多様な声をしっかりと聴いて的確に対応していくことが重要です。開館後も日常的に利用者の声やニーズを反映していくためのしくみを検討していくこととしています。

平成23年度においては、引き続き障がい者団体等と、建築工事や展示工事、活動と運営についての検討状況などに応じた内容について意見交換を行うとともに、広く県民・利用者の皆さんに、新県立博物館についてお知らせし、意見をお聞きするためのアンケート調査を行っています。あわせて、経営向上懇話会や広報戦略の作成なども行っているところです。

2 施設整備の進捗

1) 建築工事

【博物館建築】

新県立博物館については、調査研究・収集保存・活用発信の博物館活動の機能を満たすことはもちろん、建築物として、外観デザインでは三重らしさを表した落ち着いたある縦のテラコッタルーバー、地震対策としての免震工法、環境面への配慮としての太陽光発電や地中熱を利用した空調熱源システム等を採用しており、建築物の施工については高度な技術を要するものとなっています。

【経過】

- ・平成22年 5月 建築設計完了
- ・平成22年11月 建築工事契約締結
- ・平成22年12月 造成工事完了
- ・平成23年 1月 建築工事に着手

建築設計は、県民の皆さんや県議会の意見をお聴きしながら設計を進め、平成22年5月20日に完了しました。

造成工事は、三重県土地開発公社により、敷地の高さを整備するための土の掘削や、地下調整池の設置などの敷地の造成工事を行い、平成22年12月15日に完了しました。

【建築工事】

建築工事や展示工事など新県立博物館の建設に関する複数の工事関係者が参加する、工事の総合的な調整会議を、新県立博物館建設地現場事務所において定期的実施（平成23年4月以降約40回）しています。テーマや課題別の分科会についても開催し、工事自体を円滑に進めるために工事関係者がお互いに意見交換する中で、博物館の建設に対する理解を深め、より良い博物館を作るという意識を醸成しています。

なお、施工段階でユニバーサルデザインの意見交換などについても実施し、より使いやすい施設となるように詳細な検討を行っていきます。

【現場見学会等】

現在建設工事進行中の新県立博物館について、日常、あまり見ることでできない工事現場を実際に見ることにより、現在の新県立博物館の建設状況をお伝えするとともに、県民の皆さんが免震工法等の特徴的な技術や、どのように建物が建築されていくのかを知り、博物館の活動や展示だけでなく、博物館を総合的に理解いただくきっかけとなるように、現場見学会を平成 23 年 10 月 30 日に実施し、55 名が参加しました。

さらに、将来の職業の参考としていただくために、県内の建築関係学科の高校生を対象とした現場見学会を（社）三重県建設業協会と連携して実施し、計 3 日間、113 名が参加しました。また、三重大学建築学科の学生についても、授業の一環としての現場見学会に協力し計 2 日間、87 名が参加しました。

今後も、継続して現場見学会を開催し、県民の皆さんに、建設状況を報告するとともに、新県立博物館を身近なものとして理解していただけるよう努めていきます。

2) 展示工事

平成22年10月にまとめた展示設計をもとに検討を加えて仕様をまとめ、平成23年8月に入札を行い、10月に受託者のトータルメディア開発研究所と展示製作及び施工業務の委託契約を結び、展示工事を開始しました。展示関連の製作施工は、展示エリアのみではなく、交流創造エリア・エントランスエリア・外構・野外敷地を含めた範囲を対象としています。

今後、平成26年3月の完成までの2年半の間に、展示資料や関連地域などの詳細調査・再検討を踏まえて、製作に向けた各種の施工図・詳細図の作成、映像などの撮影、展示資料・グラフィック・映像音響資料及び展示設備などの製作、現場での施工・設置・空間演出を行います。

平成23年度は、展示コーナーごとに展示資料や関連地域について詳細調査や現地調査を行い、これらをもとに施工図・詳細図の作成に向けて再検討を行うとともに、展示資料のデータ集約を行います。また、秋から冬にかけての情景や行事・いきものなどの映像・画像の撮影、一部の標本製作などを行います。

さらに、展示工事についても施工段階でユニバーサルデザインの意見交換を行うなど誰もが楽しめる展示づくりを進めます。

3) 情報システムの構築準備

本年度は、平成24～25年度にシステム構築を行うための仕様書づくりを行っています。

具体的には、平成22年度に展示設計と協調しながらとりまとめた「情報システムの基本的な考え方」をもとに、新県立博物館の理念と特徴（県民参画、公文書館機能の一体化など）を反映した情報システムの概略をまとめ、7月に関係事業者に対して「三重の新県立博物館情報システム構築・機器調達・運用保守等委託にかかる情報の提供依頼を行いました。これに対して、3社から情報提供や提案があり、これらを参考（RFI）にしながら、最終的なシステムの仕様内容について現在、検討を行っています。

3 広聴広報

【 目的 】

県民の皆さんに、新県立博物館について知っていただき、「みんなで作る博物館」の機運を醸成するため、以下の取組を実施しました。

【 概要 】

(1) 広報活動

時 期	内 容
昨年度から 引き続き実施	<ul style="list-style-type: none">・ 津駅構内への看板設置・ 県立博物館への懸垂幕設置・ 県庁大駐車場への横断幕設置・ 毎日新聞「続紙上博物館」、博物館・美術館ジャーナル「ミユゼ」への連載・ 博物館教室、フィールドワークでのPR
5月	<ul style="list-style-type: none">・ 移動展示「化石が出たゾ！」展におけるPR
6月	<ul style="list-style-type: none">・ 紀勢自動車道 紀勢大内山IC（大紀町）付近への看板設置
7月	<ul style="list-style-type: none">・ 関西広域機構 関西広報センター（KIPPO）ニュースへの寄稿・ M祭におけるPR・ 1万人アンケートの実施（翌年3月まで）
9月	<ul style="list-style-type: none">・ 新県立博物館ニュースの発行・ キッズ・モニターの実施・ 出前トークでのPR
10月	<ul style="list-style-type: none">・ 東京三重県人会大会でのチラシ配布・ 建設現場説明会の実施
11月	<ul style="list-style-type: none">・ リーディング産業展みえでのPR・ 男女共同参画フォーラムでのチラシ配布・ 県民公募債の募集におけるPR・ Mie Art Press への掲載

(2) 広聴活動（アンケート調査等）

①各種イベント等におけるアンケート

さまざまなイベントや会議の機会を活用して、新県立博物館のPRとアンケートを実施しました。

（主なもの）

- ・ 移動展示「化石が出たゾ！」展（5月）
 - ・ みんなでつくる博物館会議 分科会「しゃべり場～みんなでしらべ、展示ができる!？」（7月）
 - ・ PRキャラバン（1万人アンケート）（7月～）
 - ・ M祭! 2011（7月）
 - ・ キッズ・モニター（9月）
 - ・ 経営向上懇話会からの意見聴取（10月）
 - ・ リーディング産業展（11月）
 - ・ 出前授業、出前トーク等
- （今後の予定）
- ・ みんなでつくる博物館会議 こども会議（12月）
 - ・ みんなでつくる博物館会議（2月）
 - ・ 移動展示（1-2月）

②PRキャラバンによるアンケート（1万人アンケート）

平成23年7月から翌年2月末にかけて、県内の文化施設、観光施設等で新県立博物館のチラシを配布して広報活動を行うとともに、新県立博物館に関するアンケートを実施しています。この中で認知度の状況についても調査します。

調査機会	調査場所	調査期間
桑名市立中央図書館	桑名市	7月25日
桑名市博物館	桑名市	7月28日
四日市市立図書館	四日市市	7月29日
四日市市立博物館	四日市市	7月30日
M祭	津市	7月31日
松阪市嬉野図書館	松阪市	8月1日
鈴鹿市考古博物館	鈴鹿市	8月4日
三重県立図書館	津市	8月5日
鈴鹿市立図書館	鈴鹿市	8月6日
松阪市立図書館	松阪市	8月7日
上野図書館	伊賀市	8月18日
伊勢市立伊勢図書館	伊勢市	8月19日
おかげ横丁	伊勢市	8月20日
伊賀流忍者博物館	伊賀市	8月21日
津市図書館	津市	8月24日

桑名市立中央図書館	桑名市	8月25日
四日市市立図書館	四日市市	8月26日
道の駅海山	北牟婁郡紀北町	8月27日
道の駅紀伊長島マンボウ	北牟婁郡紀北町	8月28日
尾鷲市役所	尾鷲市	8月29日
四日市市立博物館	四日市市	8月31日
熊野市立図書館	熊野市	9月3日
道の駅パーク七里御浜	南牟婁郡御浜町	9月4日
道の駅紀宝町ウミガメ公園	南牟婁郡紀宝町	9月5日
道の駅木つつ木館	度会郡大紀町	9月6日
道の駅奥伊勢おおだい	多気郡大台町	9月7日
桑名市立中央図書館	桑名市	9月8日
四日市市立図書館	四日市市	9月9日
四日市市文化会館	四日市市	9月10日
鈴鹿市立図書館	鈴鹿市	9月11日
亀山市立図書館	亀山市	9月12日
三重県立図書館	津市	9月15日
明和町立図書館	多気郡明和町	9月16日
鳥羽水族館	鳥羽市	9月17日
志摩マリノランド	志摩市	9月18日
伊勢市立伊勢図書館	伊勢市	9月19日
名張市役所	名張市	9月22日
上野図書館	伊賀市	9月23日
伊賀流忍者博物館と伊賀上野城	伊賀市	9月24日
五桂池ふるさと村	多気郡多気町	9月25日
松阪市嬉野図書館	松阪市	9月26日
松阪市松阪図書館	松阪市	9月29日
四日市市立博物館	四日市市	9月30日
アスパア玉城（ふれあいの館）	度会郡玉城町	10月1日
五ヶ所城址と愛洲の館	度会郡南伊勢町	10月2日
度会町役場	度会郡度会町	10月3日
桑名市立中央図書館	桑名市	10月6日
四日市市立図書館	四日市市	10月7日
四日市市立博物館	四日市市	10月8日
鈴鹿市立図書館	鈴鹿市	10月9日

鈴鹿市文化会館	鈴鹿市	10月10日
菰野町役場	三重郡菰野町	10月13日
じばさん三重	四日市市	10月14日
伊賀流忍者博物館と伊賀上野城	伊賀市	10月15日
上野図書館	伊賀市	10月16日
道の駅関宿	亀山市	10月17日
三重県立図書館	津市	10月20日
松阪市松阪図書館	松阪市	10月21日
松阪市嬉野図書館	松阪市	10月22日
斎宮歴史博物館	多気郡明和町	10月23日
伊勢市立伊勢図書館	伊勢市	10月24日
木曾岬町役場	桑名郡木曾岬町	10月27日
朝日町役場	三重郡朝日町	10月28日
東員町総合文化センター	員弁郡東員町	10月29日
四日市港ポートビル	四日市市	10月30日
いなべ市役所	いなべ市	10月31日

引き続き、アンケート、ヒアリング、有識者からの意見聴取などを行いながら、今年度末に広報戦略をとりまとめ、効果的な広報活動を遂行していきます。

【協創と連携】

新県立博物館では、より多くの方々に来館いただくのはもちろんのこと、博物館の活動や運営に関しても多くの主体に参加・参画いただきたいと考えています。

そこで、個人に対して博物館への来館を促すだけでなく、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている県内企業や団体、NPOといったさまざまな主体に対して、さまざまな面で連携いただくことを促す取組についても、当館における広報の一つとして位置づけています。

4 開館に向けた事業の実施状況

1) 開館に向けた調査研究活動

新県立博物館の基本展示室や三重の実物図鑑ルーム、こども体験展示室、そして、開館後の特別展・企画展などでは、三重の自然、文化、歴史、暮らしに関するさまざまなテーマで展示するため、各展示室の展示コーナーのテーマや内容、演出や展示手法、さらに、展示資料の劣化を防止するための調査研究を順次進めています。

平成23年度に実施した調査研究

- ・ ミエゾウ全身骨格復元調査
- ・ 御師屋敷の復元研究
- ・ 御師屋敷の器物悉皆調査
- ・ 大杉谷・大台ヶ原の調査
- ・ 鈴鹿山脈の石水溪・御在所岳・朝明溪谷の調査
- ・ 鈴鹿八風峠や熊野街道の峠道の調査
- ・ 伊勢湾内・熊野灘の深い海の底の生きものの分布の調査
- ・ 伊勢湾岸松名瀬干潟の生きものの分布の調査
- ・ 伊勢湾集水域のみに生息する生きものの生態の調査
- ・ 丸山千枚田の稲作の暮らしの調査
- ・ 伊賀盆地の里山の暮らしの調査
- ・ 櫛田川下流域の条里区割の残るほ場の暮らしの調査
- ・ 志摩のまつりと海女の暮らしの調査

などを実施しました。

各調査研究の実施にあたっては、県民の皆さんとの協創と連携により進めています。

①地学分野

【 目 的 】

ミエゾウは、約430～300万年前に生息していた化石のゾウで、その化石が1918年に津市で最初に発見され、学名に三重の名(*Stegodon miensis*)が使用されました。新県立博物館では、三重を象徴する展示として、学習交流スペースや基本展示室に、ミエゾウのことを展示することにしました。それに関連して、ミエゾウの全身骨格の復元調査や生きていた時代の古環境を明らかにする調査や、ミエゾウからアケボノゾウへ進化した過程を明らかにする調査を行っています。

【概要・協創と連携】

○ミエゾウ全身骨格復元調査

平成22年度に、展示設計の検討とあわせて設置したミエゾウ全身骨格復元委員会で検討された調査計画に基づき、復元のため国内各地のミエゾウ化石の形態データの収集を行っています。得られたデータから復元された骨格の姿勢を確定していきます。

委員会には亀井節夫京都大学名誉教授を顧問に迎え、大阪市立自然史博物館、兵庫県立大学、みなくちこどもの森自然館の専門家に委員として参画していただき、その指導のもと、協働で調査を行っています。

○新県立博物館建設地の地層・化石調査

新県立博物館建設地で発見された化石群は、ミエゾウの生きていた時代のもので、その地層断面を記録し、化石資料を収集するなど調査を実施しています。

平成23年3月に第一次調査を、平成23年5月の連休中に、第二次調査を行いました。第二次調査実施後、さらに化石を多く含む堆積物を別の場所に移動させて取り置きし、調査を行いました。実施にあたっては、新県立博物館建設地地層・化石調査委員会を4月・7月に開催し、各分野の専門家と調査・研究方法について検討しています。

発見した化石には、ミエゾウと考えられるゾウの足跡化石のほか、シカの頭骨や角、ワニの歯や鱗骨、カメの甲羅、魚の骨格や咽頭歯、昆虫や植物の化石がありました。また、詳細な環境を明らかにするために、花粉分析を行っています。7月には、これらの成果について、速報展と中間報告会を開催し、広く県民の皆さんに調査状況や成果をお知らせしました。

今後、周辺の地層の調査や火山灰の分析を行い、さらに詳しく年代や古環境の研究を続けていきます。

調査委員会では、大学や他県の博物館などに所属する専門家にご指導いただき、調査の方針や方法を決定しました。

また、第二次調査では、5月3日に「子ども化石調査体験」を実施し、計622名の親子に調査に加わっていただきました。第二次調査や取り置き調査は、三重県立博物館サポートスタッフの化石・鉱物グループと協働で実施しました。

○御幣（おんべ）川のゾウ足跡化石調査

鈴鹿市の御幣川流域の地層は、ちょうどミエゾウからアケボノゾウへと進化していったと考えられる約260万年前の時代のもので、新県立博物館で展示されるミエゾウとアケボノゾウの全身骨格復元標本の展示ストーリーを作成するため、ミエゾウからアケボノゾウへの進化過程と、ゾウがいた頃の三重の古環境を明らかにするために調査を実施しています。

平成19年度から22年度に行った調査に引き続き、23年度末に地質や足跡の分布調査を行う予定です。

平成22年度まで、県内外の学術団体（滋賀県足跡化石研究会、名古屋地学会ほか）や大学等の研究者、三重県立博物館サポートスタッフ、鈴鹿市、地元自治会、地元小学校など、多様な主体の協力を得て実施しました。平成23年度も県内外の研究者と地質調査を行う予定です。

②自然分野

【 目 的 】

新県立博物館における基本展示では、三重県内の自然の豊かさを具体的に紹介します。そのため、過去から現在の三重の自然の姿について、最新の調査結果をもとに、皆さんに三重県内各地域が誇る自然の多様性を紹介するべく、各地で自然に関わる調査研究活動を進めています。

【概要・協創と連携】

○大杉谷・大台ヶ原の自然の調査

シイ・カシ林、ブナ林、トウヒ林のジオラマ製作のため、専門家への聞き取りやそれぞれの森の候補地域にて動植物の現地調査を進めています。

平成23年度の調査において、モデルとなる場所をほぼ決定しました。

今後は、ジオラマ製作へ向けて、より詳細な調査を行い、動植物や環境の表現方法の検討を進めていきます。

○鈴鹿山脈の自然の調査

カモシカの生息地域の環境、花崗岩地域に多いツツジ科植物の分布、石灰岩地の植物、鍾乳洞内部など各種調査を、御在所岳や藤原岳などで進めています。

平成23年度は、NPO法人三重県環境保全センターとともにカモシカが見られる岩場の現地確認や、ツツジ科植物や石灰岩地の植物の分布確認を行いました。

今後は、展示への具体的な反映へ向けて、石灰岩地形や鍾乳洞内部の環境調査や、展示資料の精査をさらに進める予定です。

○伊勢湾の自然の調査

松阪市の松名瀬海岸をモデル地として、伊勢湾の潮の干満の様子映像化、干潟や、河口の汽水域、砂浜、海浜植物、干潟、アマモ場など、そして湾内の多様な生物の生息状況調査を行っています。

平成23年度は、三重県立博物館サポートスタッフとともに調査を実施し、さまざまな生物が採集及び撮影され、展示制作のための詳細なデータを得ました。その成果を「松名瀬干潟で観察できるいきものたち(仮)」というハンドブックとして平成23年度末に発行する予定です。

今後は、来年度以降の本格的な標本資料や映像資料製作へ向けて、効率的な資料収集活動を行う予定です。

○熊野灘の自然の調査

黒潮の恵みである多様な魚や、暖かい気候に育まれた森にくらす動植物、及び深い海にすむ生きものの生息状況調査を行っています。

平成23年度は、暖かい気候に育まれた森の候補地を選定するとともに、展示する動植物資料の基礎調査をしました。さらに、三重大学や三重県水産研究所の調査船に乗り、深い海や沖合の生きものを採集しました。

来年度からは、沿岸の海域の生物採集調査も本格的に進めます。

○新県立博物館の里山の調査

新県立博物館の敷地には、かつては多く見られた里山林があります。しかし、周辺が開発される中で人とのかかわりが失われ荒れていました。新県立博物館ではこの里山を復元して、利用者の皆さんと活動できる場所とする計画です。これに向けて、里山の現況調査と経年変化の記録を行っています。

平成23年度は、三重県立博物館サポートスタッフとともに里山環境を圧迫していたモウソウチクの駆除を行いました。

今後は、経年変化の記録をとりつつ、かつての里山林の復元へ向けて地域固有の種を保全する植栽や長期的な管理計画を検討していく予定です。

③人文分野

【 目 的 】

新県立博物館の基本展示のうち、人文分野の「三重をめぐる人の交流」で取り上げる中核的展示資料として製作する御師屋敷復元模型の建物や参宮の情景を検討するため、また、伊勢参宮や御師関係の展示検討、及び、地域における文化遺産の保存活用活動への協力のため、現地調査を実施しています。

【概要・協創と連携】

三重をめぐる交流史のピークのひとつが、全国から極めて多数の人びとが集まった近世の伊勢参宮です。「御師」は全国の人びとと伊勢をつなぐ重要な役割を果たしていました。

○御師屋敷の復元研究（建築・情景）

復元模型の製作のため、伊勢市内に残っている建物の調査や、屋敷図・刷り物・古写真などをもとに、建築復元仕様を検討し、建築復元図を作成しています。

平成23年度は、復元対象としている34棟のうち、約半数の建物の復元図（立面図・屋根伏図・内部展開図など）100枚を作成します。これ以外の建物については、平成24年度に復元図を作成します。

参宮の情景復元については、建物内部の利用状況・参宮者の動向のモデルを作成するため、文献史料等のデータを収集し考証を行いました。今後、これらの研究成果をもとに、御師屋敷の復元模型や伊勢参宮関係の展示資料・映像・グラフィックなどを製作して行きます。

復元研究は、三重大学との連携協定に基づき、平成22年度から三重大学大学院工学研究科、及び人文学部の研究者と共同研究として実施します。

○御師屋敷の器物調査

外宮旧御師の丸岡宗大夫邸について、地元の歴史研究者や建築士の方々による旧御師・丸岡宗大夫邸保存再生会議が保存活用のために進めている建物整備に協力するかたちで、同邸に伝来してきた器物や美術工芸資料の写真撮影・計測などの調査を月1回程度実施しました。また、調査の成果について、保存再生会議主催のフォーラム（平成23年11月27日（土））で中間報告しました。

今後は、主な資料の詳細な調査を行い、その成果を同邸の保存活用や新県立博物館の展示に活かして行きます。

器物調査は、旧御師・丸岡宗大夫邸保存再生会議と連携しながら、生活・文化部文化振興室県史編さんグループほかの職員や、皇學館大学の研究者・学生と協働で実施しました。

○その他

中世に近江商人が越えた鈴鹿山脈の八風峠、中世から近世にかけて熊野に向かう巡礼者が歩んだ熊野街道の峠道などの現地調査や、伊勢参宮や伊勢商人・伊勢土産・街道・宿場・湊などに関連する資料について、調査を実施しました。

④総合分野

【 目 的 】

新県立博物館における基本展示では、三重県内の人と自然のかかわりについて、くらしという切り口から紹介します。皆さんに三重県内の特色あるくらしをお伝えするため、山、盆地、平野、磯における現在のくらしとその歴史的な背景について、各地で調査研究活動を進めています。

【概要・協創と連携】

○山のくらしと自然の調査

大台・東紀州地域の林業と丸山千枚田に代表される棚田での稲作をモデルに、山間部における自然と生業の密接な関わりと、地域で育まれてきた知恵と技術について調査を行っています。

平成23年度は、丸山千枚田へ丸山川から水を導く井堰やしみ出し井、各田にあまねく水を引き入れるための「畦こし」や「水通し田」など、棚田ならではのしくみや技術についての調査を行いました。また、棚田のオーナー制度など荒廃した棚田の復田や保全に取り組む地域の活動取材しました。この調査では、財団法人紀和町ふるさと公社や紀和町丸山千枚田保存会の方々にご理解とご協力をいただいています。

○盆地のくらしと自然の調査

伊賀盆地の景観やため池に生息する生き物、里山の資源を用いた生業などを手がかりに、里山における人びとのくらしの調査を行っています。併せて、伊賀を特徴づける、かんこ踊りについても重点的に調査しています。

平成23年度は、モデル地を選定するため、伊賀盆地のため池や集落の巡見を行い、候補地を探しています。また、伊賀のかんこ踊りについて、担当職員が伊賀市の「伊賀のかんこ踊り調査研究事業」に調査員として関与しながら、行事の見学と関係者からの聞き取り調査を実施しました。

○平野の暮らしと自然の調査

松阪市と明和町に広がる櫛田川下流域の平野をモデル地として、小河川の祓川と、条里区割りの残るほ場を対象に、利水して稲作を行ってきたくらしぶりや水田水路にすむ多様な生物の生息状況調査を行っています。

平成23年度は、配水や水田へ遡上して産卵し、子が水田で発育するメダカやナマズを観察しました。地域の出合い（共同作業）で実施される水路の維持管理作業に参加しました。また、くらしについて地域の方からお話を伺いました。この調査では、地元自治会や小学校、三重大学教育学部と共同研究を行っています。

○磯の暮らしと自然の調査

志摩・東紀州の磯のくらしについて、志摩町和具をモデル地として、当地域に特徴的な海女漁をはじめとする生業や、まつりや行事、食事などの日々の営みとともに、多様な生物の生息状況について調査を行っています。

平成23年度は、海女漁の様子について見学し、海女の方からお話を伺いました。また、和具の主要な祭りである「潮かけ祭り」に参加しながら調査しました。海岸では、海藻をはじめとする生き物の観察を行うとともに、地域の方から海藻の利用法などについて教えていただきました。

なお、海女については、平成20年度から隔月1回「海女研究会」を開催して県内外の研究者と情報交換をしています。

⑤総合分野（博物館学）

【目的】

新県立博物館の開館以後の運営と事業のあり方を、博物館学を基礎にして行なうことができるように、博物館運営についての基礎的な研究を行ないました。

【概要・協創と連携】

○博物館の社会的役割についての研究

知事から指示があった「3方向」「7項目」にかかわって、博物館が三重県の地域社会の中でどのような位置を占め、社会的な役割を果たすことができるか、という視点を明らかにするための情報・資料収集と研究を行ないました。

○博物館内の資料保存環境の改善についての研究

新県立博物館での開館に先立ち、現三重県立博物館での資料管理についての問題点と課題を挙げ、日常的な観察の中から、現三重県立博物館での資料管理についての研究を行なっています。この研究を発展させることで、新県立博物館での収蔵庫環境や展示室内の環境などについての指針づくりにつながるものです。

2) 開館に向けた収集保存活動

①自然・人文資料の収集

【 目 的 】

三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、新県立博物館の基本展示室や三重の実物図鑑ルーム、こども体験展示室、そして、開館後の特別展・企画展などで、三重の自然、文化、歴史、暮らしに関するさまざまな資料を展示することを目的に資料を収集します。

【概要・協創と連携】

三重の自然と歴史・文化に関するさまざまな資料は、県民共有の資産として長く保存するとともに、今後、人づくり、地域づくりに貢献する活動に生かしています。また、これらの各室で展示する資料、あるいは、展示内容に関する研究資料として、これまで現三重県立博物館が収集してきた資料の中から、開館時までに演出上の加工をして展示していきます。さらに、博物館が所有していない資料に関しては、各展示室の展示コーナーのテーマや内容に即した新たな資料の収集を順次進めています。

●自然資料

○伊勢湾の自然のコーナーでの展示資料

大潮の時期に三重県立博物館サポートスタッフとともに松阪市松名瀬海岸の河口、砂浜、干潟、アマモ場で生きものを採集しました。伊勢湾内において、三重大学の調査船で海の底にすむ生きものを採集しました。

○熊野灘の自然のコーナーでの展示資料

熊野灘において、三重大学の調査船で海の底にすむ生きものを採集しました。また、三重県水産研究所の調査船で沖合の生きものを採集しました。

○三重の実物図鑑ルームでの展示資料

実物図鑑ルームで展示するスッポンやヘビ類を採集しました。県民から寄せられた情報や持ち込みによって、カモシカやヘビ類の死体を収集しました。

- ・平成24年度末までに、採集が計画されているすべての生きものの収集を行い、完了する予定です。

●人文資料

平成23年度は、伊勢参宮や伊勢商人に関する日記や浮世絵、絵葉書、三重について記述がある木版本、伊勢・二見の土産物などを購入します。購入資料のひとつである「伊勢講代参道中日記」は、江戸時代後期に信州諏訪から2度にわたり伊勢参宮した人物の道中日記で、毎日の行程や通事情、食費、伊勢での贅沢な食膳などが記録されています。基本展示の伊勢参宮のコーナーで紹介する参宮者の動向と御師の饗応（きょうおう）を検討する上で、重要な研究資料となっています。

一方、県民の皆さんから、これまでご自宅で保管されていた写真、絵葉書、講関係資料、また、昭和40～50年頃まで使用されていた農耕具、生活用具などをご寄贈いただいています。これらは、昔のくらしのようすを物語る貴重な資料として大切に保存するとともに、道具類の一部は、学校などでの昔の道具を用いる体験学習などに活用していくこととしています。

②三重のくらしの写真収集プロジェクト

【 目 的 】

誰もが博物館活動に参加しやすい取組として、今年度から古写真を対象とする県民参加型の収集保存活動を展開しています。このことにより、博物館活動への参画や連携と協創の幅を広げるとともに、収蔵資料及び展示、情報の充実をはかり、「みんなでつくる博物館」のあり方が分かりやすく実感できるようにこのプロジェクトを実施しています。

【 概 要 】

広く県民の皆さんに協力を呼びかけて、家庭や地域に残されている三重のくらしに関わる古い写真を収集するプロジェクトを実施しています。対象となる写真は、三重県内で明治時代から昭和40年代までに撮影された衣・食・住、仕事、遊び、まつりなどの人のくらしに関する写真です。

収集にあたっては、幅広い参加が得られるように、ポスターやチラシを配布するとともに、県内5カ所（桑名・津・伊勢・名張・尾鷲）において、写真募集への協力を呼びかける写真パネル展を開催しています。また、県内のまちかど博物館に協力をお願いしたり、県内のケーブルテレビとの連携による広報を展開したりするなど、この活動を通して多様な主体との連携の輪を広げることにも心がけています。

集まった写真は、写真資料のデータベースとして誰もがご覧いただけるようにするとともに、基本展示の「くらしと自然」の展示コーナーなどで、「みんなでつくる博物館」の活動成果として紹介する計画です。

【協創と連携】

10月から活動を開始し、県内各地の県民、まちかど博物館の皆さんなどから写真の提供をいただいています。また、ご提供者から古写真についての新たな情報を紹介いただけるなど、活動を通じて参画や連携の輪の広がりを実感できるようになってきています。県内ケーブルテレビと連携協力して、告知放送を流したり、取材番組でとりあげてもらったりしています。

③資料の保存・管理

【 目 的 】

現三重県立博物館において館所蔵資料を適切に保存・管理し、新県立博物館に引き継ぐことを目的として、保存環境調査及び対策を行いました。

【 概 要 】

平成23年度に保存科学を専門とする学芸員を採用し、次の取組を行いました。

○温湿度環境管理として、自記式温湿度記録計及びハンディデジタル温湿度計を用いた温湿度環境調査及び夏季／冬季空調計画

現三重県立博物館の施設特徴を把握し、温湿度環境を改善できました。今後も継続して温湿度測定を行い、適時対応していくこととしています。

○生物対策として粘着トラップ及び掃除機を用いた文化財害虫調査

多くの昆虫の死骸が捕集され、中には文化財害虫もいました。収蔵区画における生物環境を把握できました。

○IPM（総合的有害生物管理）による生物対策

定期的な目視点検及び清掃を行い、掃除機による生物調査で検出される昆虫類が減少しました。引き続きこれらの日常管理を行い、文化財害虫の侵入を早期に検出できるよう対応していく必要があります。

○一部収蔵区画について殺虫剤（ヴァイケーン及びブンガノン）をもちいた薬剤燻蒸（業者委託）

収蔵区画において殺虫を行いました。

○今後IPMを継続して実施していくための知識・技能習得を目的とした研修会への参加

平成23年8月24～26日に九州国立博物館において開催された、「ミュージアムIPM支援者研修（基礎編）－文化財 鎮守の森プロジェクト（太宰府文化財環境保全）－」に参加しました。ミュージアムIPMの考え方、手法、課題等についての理解を深めるとともに、この分野で最先端の活動を展開している九州国立博物館における市民参画によるIPM活動、館内環境と周辺の自然環境の調和を踏まえたIPMの取組などについて認識を深めました。新県立博物館におけるIPMの実践及び県民参画型活動の可能性の検討についての参考材料を得られました。

3) 開館に向けた諸活動

①移動展示

【 目 的 】

現三重県立博物館が平成18年度から県内各地で開催してきた移動展示では、所蔵資料を広く県民に公開するとともに、平成22年度からは、特に新県立博物館の基本展示室の先行的な展示活動や新県立博物館が推進する多様な機関との連携を試行しています。

また、新県立博物館のPRコーナーを設置して、その普及を図るとともに、展示検討ワークショップや展示解説、UDなどに関するアンケートを行っています。このような試行的かつ多様な取組により、新県立博物館がめざす「ともに考え活動し、成長する博物館」の実現につなげます。

○「化石がでたゾ！ーみんなでしらべた新県立博物館建設地ー」

【 概 要 】

新県立博物館建設地から発見した化石資料を中心に紹介しました。県内外の有識者や県民の皆さんと調査した内容や、建設地の地層、及び発見された化石について紹介しました。あわせて、建設地だけでなく、県内各地から発見されたゾウがいた頃の化石や地層について紹介しました。また、関連行事として、7月16日に調査に携わった研究者による中間報告会を開催しました。7月18日には、新県立博物館で県民の皆さんがやってみたい研究や展示活動について意見を交換する「しゃべり場」、学芸員による展示解説「ギャラリートーク」を行いました。

新県立博物館の基本展示「大地のなりたちー三重のゾウ」で扱う内容を含んでおり、解説グラフィックに使う予定のデータを収集しました。今後、新県立博物館の展示に向けて、年代を推定する火山灰のデータ等が必要なことが分かりました。また、来館者調査により、来館者の興味を知ることができました。

開催期間：平成23年7月12日（火）～7月31日（日）

場 所：三重県総合文化センター 第2ギャラリー、三重県立図書館 文学コーナー

主 催：三重県立博物館・新博物館整備推進室、財団法人自治総合センター

【協創と連携】

新県立博物館建設地の調査は、県内外の大学等の研究者、三重県立博物館サポートスタッフなど、多様な主体の協力を得て行い、5月3日には、県内の子

どもたちにも参加していただき、これらの内容を「みんなでしらべた新県立博物館建設地」という移動展示のサブテーマとし、紹介しました。

○「くらしの道具 いま・むかし」

【概要】

明治時代から昭和にかけての生活用具を紹介し、体験コーナーでは、実際に昔の道具を使ってみて、今の道具との違いを考えます。関連行事として、平成24年1月22日に祖父母と孫が昔の道具について話し合うワークショップ「やるじゃん！じいちゃん、すごいね！ばあちゃんの日」と、展示解説ツアーを予定しています。また、「三重のくらしの古写真展」を同時開催します。

【協創と連携】

伊勢市内の小学校の先生方とともに、くらしの道具をテーマにした子どもたちに「使ってもらえる」ワークブックを作成しています。

開催期間：平成24年1月21日（土）～2月26日（日）

場 所：伊勢市立小俣図書館

主 催：三重県立博物館・新博物館整備推進室、財団法人自治総合センター

共 催：伊勢市教育委員会・伊勢まるごとネットワーク会議・伊勢まちかど博物館

協 力：伊勢市立小俣小学校・伊勢市立明野小学校

②博物館教室・フィールドワーク等

【 目 的 】

三重の自然・歴史・文化について多くの県民の皆さんに興味・関心をもっていただくきっかけづくりを目的とした教育普及活動を、県内各地のフィールドにおいて実施しています。

【 概 要 】

○オオサンショウウオ「さんちゃん」のお食事会

平成18年から毎月第2土曜日に実施してきた行事を、平成23年度から特別天然記念物オオサンショウウオ給餌公開事業として位置づけて実施しています。毎回20名ほどの方が参加しています。

○フィールドワーク「調べよう！干潟の生きものたち」

毎年5-6月に津市河芸町の田中川の河口付近の干潟で、カニの観察や貝の観察を行ってきました。平成23年度は6月5日に実施し、56名が参加しました。

○博物館教室「同定会～自由研究にぴったり！採集した標本の名前をしらべてみよう！～」

毎年8月に現三重県立博物館において、夏休みや余暇に自分で採集した植物、貝類、昆虫、化石、鉱物、岩石などを持ちより、各専門の講師といっしょに名前を調べています。平成23年度は8月21日に実施し、56名が参加しました。

○フィールドワーク「旅するチョウ！アサギマダラの渡りのルートを調べてみよう」

毎年10月に鳥羽市答志島で、三重県内のアサギマダラのチョウのルートを解明するため、翅に印を付け、渡りの道筋を調べる調査（マーキング調査）をしています。平成23年度は10月16日に実施し、25名が参加しました。

○博物館教室「採集した昆虫や植物の標本づくりに挑戦！」

近くの公園で採集した昆虫や植物を使って標本づくりを行っています。
平成23年度は8月6日に津市河芸公民館の研修室で実施し、43名が参加しました。

○「青少年のための科学の祭典」三重大学大会

11月19日・20日に開催され、「切り紙 de 昆虫博士になろう」の昆虫切り紙を出展しました。777名が体験しました。

○「古文書調査法研修講座」

平成19年度から開始し、今年で4期目となる本講座は、6月から2月の計5日間に開催し、これまで37名が参加しました。また、平成23年度は新たな試みとして、各市町主体を窓口の本講座を短期集中で行いました。短期講座は玉城町中央公民館を会場に9月及び11月の計5日間に開催し、これまで80名が参加しました。また、過去3期行われた本講座の修了生を対象とした調査実習は10月及び1月の計4日間開催し、これまで25名が参加しました。

【協創と連携】

博物館教室では、指導者やスタッフとして三重県立博物館サポートスタッフの生きものグループのメンバー、県教育委員会等に参画していただきました。「古文書調査法研修講座」は県文化振興室県史編さんグループと共催しました。「古文書調査法研修講座」短期集中講座は玉城町教育委員会を窓口として実施しました。

③三重県立博物館サポートスタッフ活動

【 目 的 】

現三重県立博物館では、新県立博物館へ向けた博物館活動や運営における県民参画の先行的取組として、平成18年度からサポートスタッフの募集を始め、活動を行っています。

【 概 要 】

平成23年度現在、小学生から80才代の方まで、計286名の皆さんが参加しています。

サポートスタッフは、試行的に実施している新県立博物館の三重の自然や歴史・文化に関するさまざまな調査研究・収集保存・活用発信などの博物館活動や、評価改善のための運営面の事業に参画しています。

これらを通して、サポートスタッフは、自ら学ぶ楽しさや知的好奇心を育みながら自己実現し、世代や興味関心をこえた交流や、地域を再発見することができます。さらに、各事業に参加した体験から、意見交換を行うことで、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民・利用者が利用しやすい場づくりを進め、新県立博物館の活動と運営計画に活かしていきます。

活動内容は、三重の自然や歴史・文化を扱う「博物館研修」、県内各地で開催する移動展示や博物館教室・フィールドワークなどの博物館事業への「スタッフ協力」、各自の興味関心に沿った7つの分野別の「グループ活動」（サポスタ情報局、おもしろ博物館づくり、化石鉱物、生きもの、染織、民俗、歴史の7グループ）などです。

サポートスタッフは、それぞれ興味・関心が多様で。博物館へのニーズや活動への関わり方も異なることから、開館後の利用者組織については、利用者の関わり方の段階に応じて多様な機会の提供や受け皿及びその入り口を用意することを検討しています。

【協創と連携】

三重県立博物館サポートスタッフに参画する県民・利用者の皆さん

④シンクタンク活動

【 目 的 】

県民や県政の課題などに役に立つ博物館づくりを目的に、博物館では、収集・保存している多様な資料やデータ、及び、学芸員の専門知識をもとに、三重ならびに国の資産を次世代へ継承し、より豊かな社会を実現するために、さまざまな事業について意見を述べるとともに、アドバイスをを行っています。

【 概 要 】

各種問い合わせに対して、アドバイスをを行っています。さらに、県内で大規模開発が行われる際には、環境への影響を事前に予測して評価する「環境アセスメント（環境影響評価）」が行われますが、県立博物館は県の環境アセスメントに、幹事として参加しています。また、公共の施策に関わる各種委員会に委員として参画しています。

これまでの問い合わせや環境アセスメント、各種委員会において、多くの意見を述べるとともに、さまざまなアドバイスと資料データの提供を行ってきました。

【協創と連携】

大学等の専門家との意見交換、国（国土交通省、環境省、農水省）や市町など事業主体へのアドバイス、県の各部局への資料データなどを提供しています。また、この機会を生かして、人的ネットワークも広げています。

⑤新聞情報誌等への連載

【 目 的 】

県民・利用者の方に、博物館が所蔵する資料や新県立博物館の整備のための取組を広く知っていただくために、情報誌の連載コーナーに寄稿しています。

【 概 要 】

○毎日新聞（三重版）『続・紙上博物館—三重の姿を語る—』（毎週金曜日）

平成22年11月12日から連載しているこのコーナーへ引き続き寄稿しています。所蔵資料に限定せず、今後整備が進む新県立博物館の展示テーマも含めた、県内の自然や歴史資料、民俗などを紹介しています。

平成23年度は、当館館長、及び学芸員14名と文化振興室県史編さんグループ7名の計21名がローテーションで執筆しています。平成23年度は4月8日第17話から12月2日第48話まで掲載されました。現在展示室が閉館中のため現三重県立博物館の収蔵資料は、常設展示という形での活用が行われていません。新聞連載を通じた博物館資料の紹介によって博物館資料の有効な活用ができていると考えています。

○博物館・美術館ジャーナル「ミュゼ」『Making of 三重の新県立博物館』（年4回発行）

本誌で平成22年7月発行の第93号から学芸員がリレー方式で連載しているこのコーナーへ引き続き寄稿しました。新県立博物館での博物館活動に向けての取組について紹介しました。

平成23年度は「第4回 「しぜん文化祭」と「三重の新県立博物館」」（5月刊行 第96号）、「第5回 新県立博物館建設地から化石がザクザク！-協働・連携による建設地の地層・化石調査-」（平成23年8月刊行 第97号）、「第6回 よりよい保存環境をめざして」（平成23年11月刊行 第98号）が掲載されました。

新県立博物館が目指す博物館活動を紹介することによって、全国の博物館・美術館関係者に新県立博物館の取組が注目され、今後の博物館活動への協力・発展につながることを期待されます。

⑥博物館資料の活用

【 目 的 】

文化の向上の発展に資することを目的とし、博物館所蔵資料の文化的活用を行いました。

【 概 要 】

全国の文化財公開施設等からの収蔵資料の借用申請や、出版社等からの資料画像についての利用申請、研究目的の資料閲覧申請に応じ、館収蔵資料の活用を行いました。

平成23年度の博物館資料の貸出し件数は、9件53点（昆虫標本25点、絵図1点、考古資料4点、剥製標本1点、民俗資料12点、化石レプリカ7点、液浸標本3点、）でした。また、出版・掲載等への画像提供は19件31点、研究目的とした資料閲覧は3件14点でした。（11/8現在）

今後も博物館資料の適切で安全な保存を行いながら、積極的に活用していきます。

⑦博物館での実地研修

【 目 的 】

将来学芸員を目指す学生に対し博物館業務に関する講義・実習を行い、博物館学芸員を育成すること、及び、博物館とその事業や利用の仕方を理解することを目的として、「博物館実習」を行いました。また、博物館の社会的役割を果たし、博物館への理解を広げるため、公立中学校教諭の「初任者研修（校外選択研修）」及び大学からのインターンシップの学生を受け入れました。

【 概 要 】

博物館実習は、県内出身者、あるいは県内の大学在籍者であることを対象に年度はじめに募集し、計6日間にわたり、人文系・自然系の博物館実習を実施します。カリキュラムは、現三重県立博物館内施設と活動の概要、新県立博物館の整備概要、博物館学概論、保存科学、生態展示、化石クリーニング、展示制作、資料の取り扱い、梱包、資料撮影、博物館イベントの準備と対応、博物館実習のふりかえりなどを行います。

平成 23 年度は、7月26日から31日まで計10名が受講しました。上記のカリキュラムのほか、移動展示を見学し、その作り方を収録したビデオ教材から展示制作を学びました。

初任者研修 1 名とインターンシップ1名は、上記カリキュラムの一部と、一般業務及び学芸業務を体験しました。

施設や業務の関係で、限定した期間と人数で実施していますが、より多くの方に参画していただくために、開館後の受け入れ態勢を整備する必要があります。

【協創と連携】

三重大学をはじめとした大学、県内小・中・高等学校

4) 評価と改善のしくみづくり

新県立博物館の活動と運営は、県民・利用者の皆さんにとって利用しやすいものでなければなりません。そこで、多くの県民・利用者の皆さんから広く意見や評価をいただいて活動と運営を改善していくことを目的に、そのしくみづくりに取り組んでいます。

評価と改善のしくみとして、多くの県民・利用者の皆さんから広く意見や評価をいただくために、さまざまな地域でのアンケートや「みんなで作る博物館会議」を試行的に実施しています。「経営向上懇話会」でも評価と改善のしくみのあり方についてご意見をいただくことにしています。

①みんなでつくる博物館会議

【 目 的 】

新県立博物館の活動と運営は、県民・利用者の皆さんにとって利用しやすいものでなければなりません。そこで、多くの県民・利用者の皆さんから広く意見や評価をいただいて活動と運営を改善していくことを目的に実施しています。

【 概 要 】

みんなでつくる博物館会議は、新県立博物館の活動や運営に対する意見をいただくことで、県民の皆さんが新県立博物館づくりに参画する場として、平成21年度から実施しています。会議は、年数回開催する「分科会」と年度末に1回開催する「本会議」に分けられます。

分科会は、テーマや対象者を絞って意見をお聴きする場です。

本会議は、「分科会」や、年間を通じ、地域や大学、経営向上懇話会などさまざまな場を活用してアンケートや意見交換を行った成果を集約してお示しし、さらに「新県立博物館の活動と運営」の取組の実施結果と検討内容の進捗状況をまとめたこの冊子（「新県立博物館の活動と運営 Vol.●」）を配付して、参加する県民の皆さんと情報を共有し、多くの方が参加し、総合的に議論いただく場となっています。

●分科会

- 「県民が参画して行う博物館の調査、研究、展示活動の方針の検討会」を、平成23年度夏の移動展会場（県総合文化センター）で7月18日に実施しました。15名が参加し、以下の意見をいただきました。
 - ・ 夏休みの自由研究に対して計画段階から何度も学会員がフォローしてほしい
 - ・ 博物館利用者を移動展示の受付などのスタッフとして予算化して有効活用してほしい
 - ・ 博物館の利用の仕方などの広報を充実してほしい
- 「ユニバーサルデザイン」に対して三重県障害者社会参加推進協議会との意見交換会を9月7日に実施しました。15名が参加し、以下の意見をいただきました。また3月16日にも実施する予定です。
 - ・ エレベータを車椅子2台が余裕を持って対応できる24人乗りにしたこと考慮いただいたことがわかった
 - ・ 押しボタンの周りを突起状のようなもので囲ったものにしてほしい
 - ・ 運用面での意見交換の場の体制づくりをしてほしい

- 県立博物館の利用者団体から意見を伺う「三重県立博物館サポートスタッフ交流会」を11月23日に実施しました。34名が参加しました。
- こどもたちから意見を伺う「こども会議」を、津市総合文化センターで12月18日に実施します。平成22年度は11月28日(日)に行いましたが、この時期は、期末テストの期間と重なることから、今後、こどもたちが参加しやすい期末テスト期間の重ならない12月中旬の日曜日に実施することとしました。

●本会議

本会議は、2月中旬の日曜日に開催することとなっています。平成23年度は、県総合文化センターで平成24年2月19日に実施します。

【協創と連携】

県民・利用者の皆さん、三重県立博物館サポートスタッフ、三重県障害者社会参加推進協議会にご参加いただいています。

②経営向上懇話会

【 目 的 】

新県立博物館での活動や運営に関する方針やしukみの構築に向けて、総合的・俯瞰的に助言をいただくために、各方面の有識者で構成する「新三重県立博物館（仮称）経営向上懇話会」を設置しました。

（委員） 齋藤彰一氏 四日市商工会議所 会頭
清水裕之氏 名古屋大学大学院環境学研究科 教授
田部眞樹子氏 三重県子どもNPOサポートセンター 理事長
土岐正紀氏 中日新聞社三重総局 局長
中村忠明氏 パラミタミュージアム 事務局長
西岡慶子氏 株式会社光機械製作所 代表取締役社長
山下治子氏 株式会社アム・プロモーション ミュゼ 編集長
山田康彦氏 三重大学教育学部 教授 <座長> (50音順)

【 概 要 】

第1回会合を平成23年10月25日（火）に開催し、「企業、団体、NPO等、民間との連携の進め方」及び「広報戦略の考え方」をテーマにご意見をいただきました。

（第1回懇話会）

日時：平成23年10月25日（火）10：00～12：00

場所：三重県総合文化センター 文化会館 大会議室

議題：

- (1) 経営向上懇話会の設置について
- (2) 新県立博物館整備の進捗状況について
- (3) 整備にあたっての「3つの方向性」と「7つの項目」について
- (4) 意見交換
 - ・企業、団体、NPO等、民間との連携の進め方について
 - ・広報戦略の考え方について

第1回会合では、以下のような意見をいただきました。いただいた意見を踏まえながら、新県立博物館の効果的、効率的な運営に向けた方針や体制の構築を進めていきます。

なお、第2回会合は、平成24年1月下旬～2月上旬に開催する予定です。

※主な意見

(事業計画、収支計画について)

- ・ 事業計画及び収支計画について、開館前年(平成25年度)ではなく、もう1年早く詰めておく必要がある。

(運営体制について)

- ・ 運営組織をどうするが重要なポイント。その上で、予算、資金の使途、企画を決めていくことになる。職員についても、営業力の強化が必要。

(展示や各種活動について)

- ・ 昔のものの収集だけでなく、三重の未来像を模型で示すなど、未来への希望を与える内容にしてはどうか。
- ・ 子どもにとっての思い出となり、三重に対してふるさと意識を持てるような取組をしてほしい。

(企業、団体、NPO等、民間との連携について)

- ・ 博物館で企業に関する展示をしないかと呼びかけ、博物館がこれをコーディネートしていくことも必要。
- ・ 市町や民間の美術館・博物館との連携を図ってはどうか。新県立博物館に行けば他館の情報が入るような、県内博物館の「ハブ」としての機能を果たしてはどうか。

(広報について)

- ・ 広報に関するトータルプラン(時期、手法、重点とすべき点)が必要。
- ・ 開館(平成26年)前後には、三重を売り込めるさまざまな出来事があるので、関係者がプロジェクトチームを組んで横断的・戦略的に進めるべき。
- ・ 建物が完成するまでは宣伝してもあまり効果は上がらない。まずは組織や体制といった内部を固め、開館間近に大々的に広報した方がよいのではないか。

【協創と連携】

新県立博物館の活動と運営の構築に際し、さまざまな分野の有識者から意見をいただくことで、さまざまな視点の意見を反映させるとともに、効果的で効率的な経営をめざしています。

③「新県立博物館の活動と運営」のとりまとめ

【 目 的 】

事業実施方針に基づき、平成21年度から毎年新県立博物館に向けた検討や取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんと共有し、意見交換するためのツールとして、「新県立博物館の活動と運営」（この冊子）をとりまとめています。

【 概 要 】

新県立博物館に向けた検討や取組の実施結果と検討した内容について、毎年度ごとの進捗状況を、「新県立博物館の活動と運営 Vol.●」という冊子としてまとめています。11月末までに中間報告をまとめ、12月の県議会にお示しし、公表しています。また、毎年2月に開催される「みんなでつくる博物会議（本会議）」の参加者には本冊子を事前に配付しています。いただいたご意見をふまえて2月末までに最終報告をまとめ、3月の県議会にお示しし、公表しています。

平成23年度の取組について、「新県立博物館の活動と運営 Vol. 3」の中間報告をとりまとめました（この冊子が中間報告です）。議会でのご意見をふまえて改訂し、2月19日に実施する「みんなでつくる博物会議（本会議）」でご意見を伺います。

5) 公文書館機能の整備

【 目 的 】

新県立博物館における公文書館機能を確保するために、諸規定や体制など必要なしくみを整備します。

【 概 要 】

公文書館機能を確保するためには、その機能について整理し、県の各部局文書担当部と博物館の役割分担を明確にし、文書の作成から歴史的公文書として保存、公開するしくみを整備することが必要です。

このため、規則等の諸規定の整備とともに、施設、人材の整備を進めることとしています。現時点では、下記について博物館側で整備する必要があると考えています。

- ・ 移管された公文書を選別する場所と諸規定
- ・ 選別後の歴史的公文書を整理し、受け入れる施設（例：生物被害処置室、公文書等保存処理室、公文書整理室、歴史的公文書資料収蔵庫）
- ・ 博物館資料の閲覧とは異なる点を踏まえた歴史的公文書閲覧に際しての必要な規定と適切な施設（例：資料閲覧室、書庫、展示室）
- ・ 公文書館機能を発揮するための専門的人材（アーキビスト）

選別後の受け入れ施設については、博物館の建築整備の過程で整ってききましたが、移管された公文書を選別する施設については未定で、閲覧等に際しての諸規定についても調査・検討が必要です。また、県の執行部局で作成した公文書が適切に保存、移管される体制については、現在、法務文書室や電子業務推進室、情報公開室等とワーキンググループを結成して月に一度の割合でワーキングを行っています。

【協創と連携】

現在、歴史的公文書を選別と保存については、文化振興室県史編さんグループが行っています。また、同グループが管理する明治期の「三重県行政文書」（三重県指定文化財）や県史編さんの過程を通じて収集された資料等が多数あります。これらの機能や資料については、新県立博物館に引き継がれる予定で、移管を円滑に行うためには県史編さんグループとの連携が必要です。

このほか、みえ歴史資料保存活用連携ネットワークに加入し、資料の散逸防止や災害時におけるレスキュー活動について市町とともに協議しています。

6) 資料レスキュー活動

【 目 的 】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、及び同年9月3日に日本列島へ上陸した台風12号によって被災した文化財や資料等の救助・救済を目的とした、資料レスキュー活動への参加・協力・助言を行いました。得られた経験は、将来三重県において災害がおこった場合に備えて、新県立博物館や三重県内の資料の予防対策や被災資料の救援を支援する体制を整備します。

【 概 要 】

- 東日本大震災による被災文化財等の下記のレスキュー活動に参加しました。
 - 宮城県、岩手県及び長野県において、6月から10月にかけて学芸員計7名がそれぞれ2～4日間の日程で参加し、民俗資料、公文書、昆虫標本のクリーニング等を行いました。
 - ・東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）
 - ・中央学院大学・神奈川大学の研究者・新潟県立歴史博物館・長野市立博物館・新潟資料ネット等によるレスキュー活動
 - ・岩手県立博物館からの依頼によるレスキュー活動
- 平成23年台風12号による被災資料等レスキュー活動に参加しました。
 - ・文化振興室史料編さんグループによる県熊野庁舎の公文書レスキュー活動
 - ・被災博物館復旧作業
- 地震等自然災害発生時の対策や近隣他県の取組に関する研究会・シンポジウム等へ参加しました。
 - ・平成23年度鈴鹿亀山地域第2回勉強会「文化財レスキュー活動から見た行政の役割とは」（8月12日）
 - ・三重県博物館協会 会員館園職員 スキルアップ研修会「東日本大震災における文化財レスキュー活動」（9月7日）
 - ・文化遺産国際協力コンソーシアム シンポジウム「文化遺産を危機から救え～緊急保存の現場から～」(10月11日)
 - ・平成23年度静岡県博物館協会第1回講習会「博物館園の地震-想定東海東南海地震に備える-」(10月14日 主催：静岡県博物館協会)
 - ・平成23年度愛知県博物館等職員研修会「被災館と被災地域にある博物館-想定東海東南海地震に備える-」(10月19日)
- その他
 - 市町と三重歴史資料保存活用ネットワークや、三重県博物館協会の災害に対するアンケート調査における情報共有や災害に備えての協議を行っています。

第3章 2012（平成24）年度に向けて

1 2012（平成24）年度の位置づけ

2011（平成23）年度の取組状況と課題を踏まえて、2012（平成24）年度は、建築工事が仕上げの段階であり、本格的に展示に使用する標本などの資料の確保や製作、調査研究を行っていく年となります。

博物館の運営と活動の方針をほぼ決定する年となります。また、開館記念行事や移転など開館に向けた準備を進めていきます。

2 2012（平成24）年度の取組のポイント

2012（平成24）年度は、鈴木知事が示した「7項目」を意識しながら、これまで進めてきた取組を引き続き進め、これらの取組をより具体的な環境やしくみの整備につなげていくことが必要で、特に、次の点を重点的に進めていきます。

（1）博物館活動の構築

新県立博物館の活動（調査研究、収集保存、活用発信）について、平成23年度の検討案をもとに、引き続き県民・利用者の皆さんとともに、試行的な取組を実施しながら検討を進め、「新県立博物館の活動と運営の方針（仮称）」に位置づけた各活動方針の内容を検討して最終案を完成させていきます。

とりわけ展示については、標本を集めるとともに、内容に関する調査やレプリカ制作のための各種調査を進めます。

（2）運営の構築

「経営向上懇話会」で有識者から指摘された意見をふまえて、平成23年度の検討案をもとに、引き続き県民の皆さんや「経営向上懇話会」の有識者とともに、項目ごとに詳細な検討を進め、方針をまとめます。

（3）開館に向けた広報戦略に基づく展開

「経営向上懇話会」で有識者から指摘された意見をふまえて、開館に向けた広報戦略のもとで時期設定などに基づく本格的な広報事業を開始します。

これまでも県民・利用者の皆さんとともにさまざまな試行事業を実施し

てきましたが、新県立博物館づくりに具体的に関わっているという実感をより多くの人にもってもらえるような参画型の事業も展開します。

(4) 情報システムの検討

平成23年度に検討を行った博物館活動や運営の内容を前提にした仕様にもとづき情報システムを構築します。

(5) 「みえの文化交流ゾーン」の検討

新県立博物館を整備することにより、県総合文化センター周辺地域を三重の自然と歴史・文化に関する情報発信及び地域支援機能をもった「みえの文化交流ゾーン」として展開していくため、各施設とともに、県民、利用者の視点で検討し、取組を進めます。

(6) 開館準備

平成25年度の移転に向けた準備と、開館記念展示や記念行事など開館時の企画を進めます。